

《担当者名》○山田 律子 [rich@hoku-iryu-u.ac.jp] 船橋久美子 [kumi-funahashi@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

高齢者の生活史、価値観や意向について傾聴し、老年期を生きる人の理解を深める。疾患や障害を抱える高齢者1人を受け持ち、総合的かつ全人的アセスメントのもと多職種と協働してケアを展開する。

【学修目標】

- 1) 高齢者の生活史や価値観、過去・現在・未来に対する意向について傾聴し、老年期を生きる人の理解を深めることができる。
- 2) 疾患や障害を抱える高齢者1人を受け持ち、総合的かつ全人的アセスメントを行い、ケアプランを立案、実施・評価できる。
- 3) 高齢者と家族を取りまく保健・医療・福祉システムについて学びを深めると共に、多職種と協働してケアを展開できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習課題	1. 老年期を生きる人の理解を深める。 2. 施設における老年看護を展開する。	山田 船橋
	実習方法	1. 老年期を生きる人の理解：高齢者の価値観や過去・現在・未来に対する意向を傾聴し、老年期を生きる人の理解を深める。 2. 施設における老年看護の展開 1) 軽度～中等度の認知症高齢者1人を受け持ち、看護の焦点を明確化し、目標志向型ケアプランを立案、実施・評価する。 2) カンファレンスを実施し、看護計画を深める。 3) 実践に関するケースレポートを1例作成する。 4) 高齢者と家族を取りまく保健医療福祉システムを把握し、多職種協働によるケアを展開する。	山田 船橋
	実習場所	施設：グループホーム福寿荘	山田 船橋
	実習期間	2～3週間。日程は実習課題等に応じて決定する。	山田 船橋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習課題の達成状況60%、課題レポート40%を総合して評価する。

【教科書】

山田律子・内ヶ島伸也(2020). 生活機能からみた老年看護過程 第4版. 医学書院.

【備考】

教員が実習施設に行かない日は、実習終了後にZoomやメールを活用して、振り返りや相談、アセスメントやケアプランの作成に向けた指導を受ける。

【学修の準備】

1. 実習課題を明確にして実習計画を立て、実習施設を教員との調整のもとに決定すること。
2. 実習に際しては、毎日、実習を振り返ると共に、翌日の行動計画を立案して実習に臨むこと。
3. 看護を提供するために、根拠となる知識を事前に調べた上で実習に臨むこと。